

# 平成22年度第1回函館市観光アドバイザー会議議事録

## 開催概要

開催日時 平成22年6月7日(月) 13:30~15:00

開催場所 函館市地域交流まちづくりセンター

出席委員 木村委員, 古屋委員, 黒川委員, 藤澤委員, 和泉委員, 遠藤委員, 中野委員  
全委員, 原田委員

欠席委員 田中委員, 折谷委員

## 次第

- 1 開 会
- 2 座長挨拶
- 3 新委員紹介
- 4 説 明
  - ・平成22年度観光コンベンション部予算概要について
  - ・平成21年度観光入込客数推計について
  - ・「はこだて観光圏」の認定について
  - ・函館市観光基本計画中間評価について
- 5 意見交換
- 6 そ の 他
- 7 閉 会

## 座長挨拶

6月に入ってすぐに平成21年度の観光入り込み客数推計が発表され、マスコミ等でも話題になったが、必ずしも良い数字ではなかったと思う。経済状況が悪い中、思ったよりも小幅な減少にとどまっているが、この会議としてもあらゆる対策を練りながら取り組んでいくことが大事だと思う。今日は事務局より4点の報告事項があるが、中でも観光基本計画の中間評価を詳細にやってもらっているので、それを踏まえて、アドバイザーという立場、それぞれの専門の立場から忌憚のない意見をいただきたいと思う。よろしく願いしたい。

## 新委員紹介

函館湯の川温泉旅館協同組合副理事長堀川委員の異動に伴い、後任として理事の和泉氏が委員に就任した旨を報告。

## 説 明

以下の4項目について説明を行った。

- ・平成22年度観光コンベンション部予算概要について
- ・平成21年度観光入込客数推計について
- ・「はこだて観光圏」の認定について
- ・函館市観光基本計画中間評価について

## 意見交換における発言要旨

(藤澤委員)

・アドバイザー会議は、委員同士が具体的な議論をする場であってほしいと思う。建設的な議論をする場にしたいと思うのでよろしくお願いしたい。

・今回、はこだて観光圏が認定を受けたということだが、この地域が今後大きな発展の可能性を持っていることの表れだと思うし、認定を受けた今後が非常に大事。このことをどのように生かしていくのか、そのためにはどうすれば良いのかを考え、出来るだけ広く様々な情報を発信して行かなくてはならないと思うし、戦略を練らなくてはならないと思う。試される3年であると思うので、この1年間は期待もしている。

・民間とのパートナーシップを大事にし、あまり観光入り込み客数にこだわるのではなく、観光消費額をのばすことが地域経済にとっては重要になってくる。

・また、行政でしか出来ないこともたくさんあると思うので、役割分担をしっかりと、特に、海外からの誘客についてはなかなか民間ではやりにくいので、民間を引っ張る形でしっかりやっていただきたいと思う。

・中でも中国に対する対応は大きく変わってきており、年収制限も緩和され、4千万人のマーケットがある。例えば銀れんカードへの対応がそうであるように、観光客を誘致するという点と同時に、外国人を呼び込んで買い物をしてもらう、民間もそういう感覚をもって対応していくべきであると思う。

(木村座長)

・銀れんカードをはじめ、海外のクレジットカードなどを使用して、函館でお金を使えるようになっているのか。

(藤澤委員)

・銀れんカードが使用できる店はある。これがもっと広がってくれば、商機が見えてくると思う。生ものは持ち帰ることが出来ないが、それでは函館でどうやってお金を落としてもらうのかということが重要だと思う。

(池田課長)

・銀れんカードは、日本で言うところのデビットカードと同じ仕組みのもの。小樽では北一硝子などでは使えるようになっていたかと思う。つまり、使うお客さんが入ってくれば、取り扱うための加入が促進されるし、逆であれば増えてこない。中国というマーケットは決して新しいものではなく、7～8年前から取り組んでいるマーケット。上海や北京、広州などの地域で取り組んでいる。今後、中国からの観光客は増えると思っているので、銀れんカードの取扱店も増えてくると思う。一方では銀れんカード自体の周知が行き届いていない面もあるが、この周知は一義的には、利害関係人たる民間事業者に対し、観光協会や商工会議所など業界団体が主体となって周知に努めていくべきものと考えている。

(遠藤委員)

・パラメータ調査の期間はいつか。

(平井課長)

・今年度の5月から開始しているが、1年間かけて時季ごとに施設ごとの入り込みを調査していく。

(遠藤委員)

・5月の時点で従前の観光入り込みとパラメータ調査ではどちらが多いのか。

(平井課長)

・パラメータ調査は、該当施設に何人来たかではなく、どんな人が訪れ、訪れた人がどこを何件回ったか、回っていくかということ进行调查するものであり、観光入込客数を推計する上での指数を出す基礎調査である。

(遠藤委員)

・観光入り込み客数推計について、宿泊施設などは延べ人員で把握しているところが多い。参考でもかまわないので、延泊も加味したこの延べ人員も表示するようにしてほしい。  
・ちなみに、平成21年度通期での宿泊延べ人員はどうだったのか。

(平井課長)

・基本的に宿泊人数と平均宿泊日数の調査をしているが、全ての宿泊施設から数字が出てくるわけでもなく、また、年によって数字を出していただけない施設もある。このようなことから、北海道で一定程度のところから推計しているものと思われる。道の推計方法が分からないので、平成21年度について例年と比較するのは、市が調査している宿泊者数で推測いただきたい。

(遠藤委員)

・北海道で出している数字で、平成20年度函館市の延べ宿泊者数が440万人というのがあったと思う。その時の宿泊者数が290万人だったので、随分多いなという印象を持った。また、平成21年度上期の数字では対前年で増えているという記憶がある。

(木村座長)

・関連して、本日欠席の田中先生からのコメントがある。観光市民アンケートの回収率について、約33%は少ないという指摘がある。

(遠藤委員)

・観光圏の認定に関連して、今後ますます着地型観光が重要になってくると思う。まちあるきマップ作成やガイド育成などに取り組んでいるようだが、このようなことは地域再生やまちづくりにも絡んでくることなので、引き続きよろしく願いたい。

(全委員)

・報告を受けての感想だが、観光圏の認定は大変喜ばしいこと。地域の住民が(観光圏であるという)意識を持つことが重要。食はみなみ北海道にありというフレーズを聞いただけでも私自身再認識をしたところであるし、食という面では北海道が食の宝庫であり、その中でも道南、函館をメディアを活用して大々的に繰り広げることが大事だということを認識した。

・私の受講生は韓国へ繰り返し旅行している人が多い。行く都市によって事前に「食」の下調べをしていく。韓国からの観光客も同じだと思う。「イカ」にこだわらなくとも、函館ならではの食材を使った料理について、積極的にアピールしていくことが重要であると思う。特に「食」と「健康」を結びつけたものが効果的であると思う。

(原田委員)

・民間とのパートナーシップについて、イカール星人は、現在、シンプルウェイが動画を制作していると思うが、今後の展開について市も一緒にやっていくという戦略はあるのか。

(池田課長)

・イカール星人は、そもそも市の委託事業の中で生まれたキャラクターである。3社によるコンペで決定された企画だが、「自由にやってください」という話から出てきたもの。現在では大ブレイクして、全国的なメディアに登場するまでになっており、市としても着ぐるみや新しい動画を作るなどこれからも活用していきたい。

(原田委員)

・着ぐるみはどうやって活用するのか。

(池田課長)

・市としては北関東・南東北キャンペーンなど観光宣伝などの公的なもので使いたいと思う。

(中野委員)

・奉行所に関わる部分について、函館の人の認識は奉行所イコール箱館戦争であって、市も雑誌などに奉行所と箱館戦争、戊辰戦争を絡めた記事を掲載していることがある。むしろ奉行所と箱館戦争は全く別物であるということをしてPRした方が観光にプラスになると思う。そのことを以前に議論した時に、土方歳三を売りにする方が集客が得やすいということだった。それでは何のために奉行所を復元したのかということにもなると思う。

・今月のJRの車内誌には奉行所の建物であるとか、奉行所そのものについてきちんと掲載されている。奉行所の重要性であるとか、素晴らしさを伝えていくことで函館の観光拠点五稜郭を発信していくべきではないかと考える。

・奉行所オープンを箱館戦争に結びつけることがおかしいと思うし、集客のために誤った歴史認識を発信するということは危険なことだと思う。

・自由の女神像が話題になっているが、心配なことは、不景気になって異業種から観光産業へ参入しようとする動きがここ数年続いており、観光を知らない方が入ってくるケースにおいて、このような違和感を覚えることが結構多いように思う。その辺のコントロールを我々がしていかななくてはならないと思う。

(池田課長)

・奉行所の記事については、編集者ともよく打合せをした上で掲載しているが、特に旅サライについては、売れてこそ観光宣伝になるものであることから、奉行所の歴史も掲載するが、箱館戦争の歴史も掲載しなければならないということで、歴史を整理した上で、多くを奉行所の記述に割り、両方を掲載することとした。

(中野委員)

・20万部発行する旅行雑誌なら分かるが、6万6千部の雑誌のために440万円の予算をかけるのはいかがなものか。また、歴史雑誌は他にたくさんあり、箱館戦争、土方歳三は取り上げられている。それをなぜ今、掲載する必要があるのか。

(池田課長)

・今回のタイアップ広告は、表4と言われる裏表紙からの8ページを奉行所の記事が独占するというものであり、かつ、1万部の抜き刷りを作成してもらえというメリットもあったので、費用対効果が高いと考え、これを予算要求し、市議会の議決を経て予算化されたものである。

(木村委員)

・中野委員のご発言はアドバイスとしてはいかがなものか。この場合は「こういう風にしてはどうか」という発言をする場であると考え。

(藤澤委員)

・この場合は、個人の意見を事務局に確認する場では無い。観光アドバイザー会議は、何をするために集まっているのかを再確認すべきで、ここで日頃の疑問を事務局にぶつける場では無いと思う。これからの函館観光をどう導いていくかということをお我々が考えるという重要な役割を担っているということをお今一度確認したい。

・函館観光に関わる課題について、我々がそれを調べてアドバイスする場所であると思う。

(中野委員)

・昨年の150周年記念事業は観光面であまり生かせなかったと思う。今年の奉行所オープンに際して、観光コンベンション部として主体的に取り組む予定はあるのか。観光に生かすべきであると思うが。

(池田課長)

・150周年事業については、150周年事務局と一緒に東京、大阪、名古屋でプロモーション活動をしたが、箱館奉行所についても各旅行会社に企画商品として取り上げていただけるよう、また、ポスターなどにより、広く周知を図っていただけるよう、プロモーションを行っている。

(和泉委員)

・お客様からの意見だが、函館は交通マナーが非常に悪いと言われる。割り込みなどが多く、函館のイメージダウンにつながる。市民がお客様を迎えるという気持ちが薄いのでは無いかと思う。市民参加のイベントなどでお迎えする気持ちを高める取り組みをしていってはどうか。

・食のブランド化について、マグロをはじめとする食について、情報発信を積極的にし、楽しめる、食べやすい場を提供してすべきだと思う。

・観光入り込みについて、不景気やインフルエンザの影響もあり下がっているが、以前聞

いた講演で、日本の人口が減少している中であって、分母自体が減っている。悪くなることを前提に今後を考えていくべきだと言われ、認識を新たにした。自分たちは景気が主要因だと思っており、景気が回復すればまた良くなると思いがちだが、自然減ということも念頭に置きながら考えていかなければと思った。

(黒川委員)

・新幹線新青森開業に向けての集中キャンペーンについて、今後も継続してくのかということと、ブランド調査の結果を見たが、まだまだ知られていない部分が多いと感じたが、これを今後どう見るかという点、この2つについて聞きたい。

・また、新幹線開業に向けては会議所でも推進機構で電動レンタサイクル事業を展開することとしているし、コーヒーの薫る街という事業にも取り組んでいるところ。先程から箱館奉行所の話が出ているが、箱館奉行がコーヒーを配ったという史実もあり、こういった事業にも取り組みながら観光を盛り上げて行きたい。

(池田課長)

・新幹線を契機とした集中キャンペーンは、事業の成果が上がらない場合、中止もあり得るが、市としては何としても成果を上げていきたいと考えている。

・ブランド調査について、例えばクリスマスファンタジーの知名度が低いなど、驚くべき結果もあった。それらをきちんと踏まえた上で、頑張っていきたいが、一方で、そういうものがあるのであれば函館に行きたいという結果も出ている。訴求材料として様々な場面で売っていききたいと思う。

(古屋委員)

・観光基本計画の中間評価を進捗率とアンケート結果から出しているが、主要産業としての観光は裾野が非常に広い。本来の評価は地域への経済波及効果であると思うので、これから観光を推進していくにあたっては地域への経済効果がどれくらいあるのかという視点を持って、ポイントだけの施策をするのではなく、地域の産業をどう結びつけるかという視点で考えていく必要があると思う。

・はこぶらのコンテンツ充実に関連して、イカを楽しみに来る人に漁期が伝わらないなど、不親切な部分がある。ただ情報を流すだけではなく、ホスピタリティをもった情報提供をすべき。

・広域観光について、ミニツアーの造成というのがあるが、私も漁村・沿岸域を巡るツアーというのを実施したことがある。これらの地域の方々は広域観光に期待を寄せている。予算が取れず現状では継続実施が難しい状況にあるが、観光圏の枠に組み入れてもらうことはできないものか。函館以外の周辺地域にくる観光客も函館のお客様と考えていただければと思う。

・ホスピタリティについて、これは子供の時からの教育が大事だと思う。一朝一夕に出来るものではない。地域での観光に対する意識の向上への取り組みなどが必要だと思う。

(池田課長)

・はこぶらの件については、記事のアップのタイミングでご迷惑をおかけした。今後工夫をしたいと思う。

・経済効果については、現計画において推計値を明らかにしたが、その目標値については設定していなかった。ただその視点は、新計画を策定するにあたっての考え方の一つになるかと思う。

(平井課長)

・広域観光のツアーについては、函館市以外の地域の方々と一緒に取り組んでいるし、これからなお一層そうしていきたいと考えている。ホスピタリティについては、街全体でおもてなしをする気持の醸成や、観光客への声かけが出来るような取り組みをしていきたいと思う。

(古屋委員)

・観光圏整備計画の推進体制は。

(平井課長)

・事務局は市が担っているが、補助については民間事業についてなされるものであるので、それを手助けするという役割を持っている。

(木村座長)

・これまで2回の会議を通じて、観光という幅の広いものに対する理解が深まったと思っている。今後は、事前に資料を配付させていただき、議題を絞った形で開催したいと思う。

・次回の会議予定についてはどう考えるか。

(平井課長)

・10月くらいを考えている。

(木村座長)

・本日の会議で課題が見えてきたので、事務局とポイントを絞った上で議題をお示しいたいたいと思う。

閉 会 ・鈴木観光コンベンション部長挨拶